



雌岡山に昇る初日の出に祈る

あけましておめでとうございます

さあ令和3年2021年の幕開けです、皆様方に於かれましては、気持ちを新たにする反面、例年とは違う正月を過ごされたのではないのでしょうか。新型コロナウイルスの感染拡大が広がり、年末には、兵庫県知事からの緊急要請が出されました。私は、新年、広野小のメモリアルマウンテンである雌岡山に登り、多くの人と初日の出を拝み、広野小の安全と発展を祈願していました。しかし、感染防止の観点からそれもできず、どうしようかと思っていたのですが、「そうだ！雌岡山に登る初日の出を拝もう。」と、朝6時から雌岡山周辺に車を走らせたのでした。すると、どうでしょう。雌岡山が輝きだしました。「ここだ！」田んぼの真ん中に車を止めて、「う～さむ～」と言いながらも、じっとその時を待ちました。「でた～雌岡山に初日の出が昇った！」と思わず叫んでしまいました。雌岡山から光を放ち、なんとも神々しい光景を目にすることができました。私は、だんだんと光り輝きながら昇る日に、コロナの収束と広野小学校の安全と発展を祈願しました。コロナ禍の中で、新年の気持ちを味わうために何かできないかと考えた結果でした。雌岡山に行った理由がもう一つあります。



雌岡山に昇る初日の出

ゴズテンノウ



今年は丑年

牛は、古くから酪農や農業で人間を助けてくれた大切な動物でした。大変な農作業を最後まで手伝ってくれる働きぶりから、丑年は「我慢（耐える）」「これから発展する前触れ（芽が出る）」というような年になるといわれています。そして、今まで何度も紹介してきましたが、雌岡山には「牛頭天王」がおわします。仏教が伝来した時、お釈迦様の家来であった牛頭天王が雌岡山に住み着いたそうです。この牛頭天王、疫病に強い神様で、ふもとの村にはやり病が流行した時に、村人を守ったという伝説が残っています。牛頭天王は、頭が牛、体が人間だったといわれています。まさに、丑年にぴったり。疫病退散。牛頭天王のお出ましを期待するばかりです。

さあ今日から3学期、コロナの感染防止を自分たちでやっていかなければなりません。そして、私たちが経験したことのない未知の世界を生き抜いていかなければなりません。新たな学びを創っていかなければなりません。そんな時に必要なのが本校がキャリア教育で取り組んできた基礎的汎用的能力なのです。変化に対応する力なのです。誰にも先が見えない未知の世界、どんな変化にも対応できる力を育てるように、子どもたちと一緒に探っていきたいと思います。学校を創れ！未そして挑



新型コロナウイルスには 手洗い・うがい・かぜマスク

早寝・早起き・朝ごはん おっこー・めっこー・ござてんのう

そして 三密・換気・ソーシャルディスタンス

校長 古谷 昭文